

形成外科について

みなさんは、形成外科という診療科を聞いたことがありますか。整形外科と間違えて受診するケースも見受けられます。今回は形成外科という診療科について、少しでもお伝えできればと思います。

形成外科は「見た目をきれいに治す」ことを目的としています。「こけた」「ぶつけた」「包丁で切った」などで負った傷を単に治すだけではなく、きれいに縫って傷を目立たなくします。

また、交通事故などで切断された指をつなげる、顔面や手足の先天的な異常(口唇口蓋裂)を修正する、乳がんで切除しなければならなかった乳房を再建することも形成外科の領域です。

ほかにも、やけどや、皮膚のできもの(ほくろや粉瘤)、イボ、脂肪のできものなど)、顔面骨々折、癬痕ケロイド、眼瞼下垂、床ずれ、下肢静脈瘤、陥入爪、わきが、あざ・しみ(ほ

くろ・しみレーザー治療は保険外治療となる場合もあります)など、形成外科が対象とするものは非常に多岐にわたります。どの治療も、どうしたらきれいな見た目に仕上がるのかを常に意識しています。皮膚をどのように切って縫い合わせたらいいのかを考えるだけでなく、時には傷んだ皮膚を取り除いたり正常な皮膚をあえて移動させたりすることも必要となります。

このように形成外科は、体の表面のすべてに関わる非常に幅広い領域を扱う診療科ですので、けがをした場合や、何か見た目で気になるところがあれば、ささいなことでも気軽に相談してください。

吹田市医師会 須磨 敬司

